

アフリカを語る言葉を一新させよう

アライアンス・フォーラム財団開発プログラム・カンファランスに寄せて

日本国内閣総理大臣 安倍晋三

平成 25(2013)年 5 月 31 日 横浜ロイヤル・パーク・ホテル、芙蓉

皆様こんにちは。日本国政府を代表し、ご挨拶申し上げます。

OAU/AU 50 周年の記念すべき年に、5 回目の TICAD を開ける喜びは、きょう、これから皆さんが始める会議によって、ひとしおのものになりました。

世界の歴史が、大きく変わるその現場に、いま私は立ったのだという気がします。

コメッサ (COMESA) とサディック (SADC)、そして EAC。5 億 2700 万人の経済統合に向け、第一段階の交渉を来年までに終えようとしておられるという、このことくらい、新時代の、アフリカの、新しい現実を教えてくださいませんか。

TICAD V を通じ、私は、日本と世界の人々に対し、アフリカを語る言語と、描くに用いる色彩を、一新させようと訴えるつもりです。伸びるアフリカに投資をしていくことは、私たち自身の、将来への投資だということ、強調するつもりです。コメッサ、サディック、EAC の統合へ向けた胎動くらい、私の主張を裏書きしてくれる動きはありません。

それはアフリカの、内奥から発する胎動です。運命を我が手に、未来をおのれ自身の手でと、強く、しかし着実に、声を挙げた運動です。ひたすらに、前を目指す躍動です。

人と物の移動によって連結を強め、金融の機能もそこに付加しようとしておられる。ドラマに加わらない限り、何か大きな機会を逃してしまうということ、いま、私自身、ひしひしと感じないではられません。

そして本日までご参加の、アフリカの指導者の皆様には、日本企業を織り込んだ時、この先みな様が編むタペストリーは、必ずや、色彩に深みを増し、その耐久性を強くすることを、知っていただきたいと思えます。

なぜ、自信を持って、私はそう言うのでしょうか。

今日、ここにおいででの日本企業はどれも、世界で唯一、随一の、技術やノウハウをお持ちです。しかしそれはみな、立派な設備や、清潔な研究所、ぴかぴかの装置にばかり、宿っているわけではありません。

それをこしらえて、日々改善する、働く人々にこそ、宿っているのです。冷房のきいた大きな部屋を独り占めし、高い給料をもらう人たちではありません。立派な学歴など、ないかもしれません。

そういう無名の人たちを、日本人は「地上の星」と呼んで尊敬します。仰ぎ見る夜空にばかり、星たちはあるのではない。地上に、人知れず輝く小さな星こそが、日本を、その近代化の開始このかた、ここまで引っ張り上げてきたのだと思っているのです。

聞いてみてください。お集まりの日本企業の皆さんは、異口同音に言うと思います。アフリカでも、地上の星を育てたいと、そう言うでしょう。

だからこそ、日本企業と、日本のビジネスパーソンを、皆様の同伴ランナーにしてほしいのです。エンパワーすべきは、一に人、二に人、三に人だという彼らの発想を、大いに活かしてほしいのです。

きょうは長年の友人で、私が尊敬する同世代のひとり、原丈人さんのおかげで、すばらしい集まりをキックオフする榮譽に浴すことができました。そのことに感謝申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。